

「いちじくスクール」受講生募集開始 2月24日に説明会 新規就農のメリット大 日本一のイチジク産地・西三河支える

JA西三河は平成30年2月24日、イチジク専門の新規就農講座「いちじくスクール」の受講希望者向け説明会を開催します。

当日は、JA西三河やJAあいち経済連、愛知県農業改良普及課のイチジク担当者が、いちじくスクールの概要とカリキュラム、産地の特徴、栽培のメリット、青年就農給付金などについて、就農希望者に向けて説明します。

いちじくスクールは平成27年よりJAが県・市と協力して開講しています。第4期となる平成30年度のいちじくスクールは、4月中旬に開校式を行う予定です。

【受講希望者説明会 開催要項】

日時：平成30年2月24日（土）10：00～

場所：JA西三河小牧センター
（西尾市吉良町小牧梶見堂3）

対象者：イチジク新規栽培希望者
（スクール修了後にJA西三河いちじく部会へ加入
頂ける方に限ります）

いちじくスクール圃場：西尾市吉良町駱馬地内

いちじくスクール受講料：年間10,000円

■お申し込み・お問い合わせ

JA西三河園芸販売課（TEL:56-5272）または
JA西三河小牧センター（TEL:35-0246）まで

また、いちじくスクールのホームページからも申込み
できます。

(<http://nishimikawaischool.wixsite.com/figs>)

【イチジク栽培・新規就農のメリット】

- ①植え付け2年目から収穫でき、3年目には成木並みの売上（130万円/10a）が可能。
- ②単位面積当たりの所得が高い（10aあたり労働時間440時間・所得59万円、時給換算すると1,341円/時、JAあいち経済連試算）。
- ③栽培が軽作業で比較的簡単。脚立に上って行う作業がなく、果実が軽量で運搬も容易。
- ④気象変化に強い。収穫期間が8月から11月と長く、台風の影響などを受けてもシーズン通しての全体の収量に及ぼす影響が少ない。
- ⑤安定した需要がある。健康成分を多く含み、常食するファンを多くもつため、販売単価が景気の影響を受けにくい。
- ⑥部会に所属すれば、日本一の生産量とブランド力の「西三河いちじく」のブランドで販売が可能。他産地よりも有利な価格で販売できる。



毎年4月の開校式では、
受講生がイチジクの苗木の定植を行う



この件に関するお問い合わせは下記までお願いします。

JA西三河 園芸販売課 担当：浅井・山本

電話：0563-56-5272

メール：engeihanbai@ja-nishimikawa.com

JA西三河 企画課 担当：岡田

電話：0563-56-5214

西尾市のイチジク生産の概要

～新規就農者ぞくぞく参入～

■西三河地区は日本一のイチジク産地！

全国で約12,000トﾝが生産されているイチジク。愛知県は生産量2,479トﾝを誇る日本一のイチジク産地です。中でも西尾市などの西三河地区は、生産の中心地となっています。

昭和40年代より、水田の転作作物としてイチジク栽培が本格化。西尾市のイチジク生産者で組織する「JA西三河いちじく部会」は、JAあいち中央・JAあいち豊田・JAあいち三河のイチジク生産部会とともに組織する「西三河いちじく部会」の一員として、全国一のブランドを確立。あわせて988トﾝ（平成26年）のイチジクを生産しています。

■産地を支える「いちじくスクール」

イチジクは果樹としては珍しく、苗木の植付から2年で収穫でき、3年目には成木並みの収量を得られます。また脚立に上った作業が不要であること、果実が軽量で作業負担が軽いことなどから、新規就農者にも取り組みやすい作物です。

この性質を活かして新規就農者を取り込み、産地の維持拡大につなげようと、平成27年4月、JA西三河とJAあいち経済連は協力して、イチジク専門の新規就農者向け栽培講座「いちじくスクール」を開校しました。受講生は1年をかけてイチジク栽培の知識と技術を学びます。イチジク専門の新規就農者向け講座は珍しく、西尾市外からも受講生が集まっています。

現在は第3期生が受講中。これまでに38人が受講し、1期・2期生30人のうち8人が西尾市内外にてイチジクで就農し、現在も本格就農の準備を始めている受講生が多数います。生産者数の維持に加え、若く意欲的な生産者の取り込みを通じて規模と生産量を伸ばしています。

【産地情報】

生産者部会の名称：JA西三河いちじく部会

部会員数：48人

耕作面積：約6.9㌥

生産量：157トﾝ（ハウス44トﾝ・露地113トﾝ）

出荷時期：（ハウス）3月下旬～8月上旬

（露地）7月下旬～11月上旬

販売額：1億2000万円（露地・ハウス合計）

出荷先：主に中京市場・京浜市場

出荷品種：「柘井ドフィン」

流通：「西三河いちじく部会」を通し、4JA共販で京浜地域（60%）・中京地域（25%）・北陸地域（15%）へ出荷

全国の出荷量：12,411トﾝ

愛知県の出荷量2,479トﾝ（全国1位）

（2位和歌山県：2,207トﾝ、3位兵庫県1,413トﾝ）

西三河いちじく部会の生産量：988トﾝ



露地イチジク収穫は
8月～11月にかけて行われる



いちじくスクールでの
誘引作業実習（6月）
収穫実習（8月）

データ参照：

農林水産省 平成26年産特産果樹生産動態等調査
(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001173724>)

愛知県西三河農林水産事務所による作成資料